

**町田市いきいき長寿プラン21-23  
(町田市高齢者福祉計画・介護保険事業計画-第8期-)  
2022年度 進捗状況評価結果**

<目次>

1 主な取組の進捗評価結果一覧	1
2 基本目標・基本施策別 主な取組の進捗評価 集計結果	1
3 主な取組の進捗評価結果(詳細)	2
基本目標 1 地域とつながり、いきいきと暮らしている	2
基本施策1 地域活躍と生きがい・健康づくりの推進	2
基本施策2 地域ネットワークの充実	5
基本目標2 支援が必要になっても、支え合いにより住み慣れた地域で生活できている	7
基本施策3 日常生活支援の推進	7
基本施策4 認知症とともに生きるまちづくりの推進	10
基本施策5 在宅療養を支える医療・介護連携の推進	12
基本施策6 家族介護者の支援と高齢者の権利擁護	13
基本目標3 よりよい介護保険サービスを適切に利用できている	15
基本施策7 住まいの選択肢の充実とサービス基盤・人的基盤の整備	15
基本施策8 介護保険サービスの効率的な提供と品質向上	17

町田市いきいき長寿プラン21-23 2022年度進捗状況評価結果について

1 主な取組の進捗評価結果一覧

基本目標	基本施策	取組の柱	主な取組	進捗評価
1	1	(1)地域活動への参加促進と生きがいづくり	① 老人クラブ活動の支援	△
			② 高齢者のスポーツ活動の普及	○
			③ 「町田を元気にするトレーニング」(通称「町トレ」)自主グループの支援	○
		(2)介護予防・健康づくりのための通いの場の充実【重点】	① 介護予防と健康づくりの一体的な推進	○
			② 地域介護予防自主グループの支援	◎
			③ 「町田を元気にするトレーニング」(通称「町トレ」)自主グループの支援	○
	(3)高齢者の就労機会の確保と地域活躍の推進	① 町田市シルバー人材センターによる就労機会提供の支援	◎	
		② 介護予防サポーターの養成	○	
		③ いきいきポイント制度の普及	△	
	2	(1)高齢者支援センターのネットワーク機能の強化【重点】	① 高齢者支援センターと関係機関との連携強化	○
			② 地域ケア会議による課題解決機能の強化	◎
			③ いきいきポイント制度の普及	○
(2)地域ネットワークづくりの強化		① 高齢者見守り支援ネットワークの普及	◎	
		② あんしんキーホルダーの普及	◎	
(3)緊急時等の地域連携機能の強化		① 介護保険事業所等との緊急時の連携強化	○	
	② 高齢者の迅速かつ円滑な避難の確保と避難生活支援	◎		
2	3	(1)自立支援・重度化防止に向けた取組の推進【重点】	① 地域ケア個別会議を活用した効果的な介護予防ケアマネジメントの実施	◎
			② 短期集中型サービスの実施	○
			③ まちだ互助助クラブの支援	△
		(2)地域の支え合いの推進	① 生活支援団体ネットワークの支援	○
			② 移動支援の推進	◎
			③ 寝具乾燥消毒事業の実施	△
	(3)生活支援サービスの提供	① 自立支援・配食ネットワークの実施	○	
		② 高齢者在宅訪問理美容券の交付	○	
		③ 寝具乾燥消毒事業の実施	△	
	4	(1)認知症の人やその家族の視点を重視した地域づくりの推進【重点】	① 認知症の人やその家族の居場所づくり	○
			② 認知症サポーターの養成	○
			③ 行方不明高齢者の捜索支援	△
(2)認知症早期対応・受診の支援の充実		① 認知症相談支援	◎	
		② 認知症の早期受診支援(認知症初期集中支援チーム事業)	◎	
		③ 認知症の早期受診支援(認知症初期集中支援チーム事業)	◎	
5	(1)多職種による在宅医療・介護連携の推進【重点】	① 「町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト」の推進	○	
		② 「医療と介護の連携支援センター」による医療・介護連携の推進	◎	
6	(1)家族介護者への支援の充実	① 家族介護者教室・家族介護者交流会の開催	◎	
		② 市民向け基礎介護技術講習会の開催	◎	
	(2)高齢者の権利擁護	① 成年後見制度の利用支援	○	
		② 高齢者虐待の防止	○	
3	7	(1)介護人材の確保・育成・定着【重点】	① 介護人材バンク機能強化による多様な担い手の確保	◎
			② 中核となる専門人材の育成・定着	○
			③ 介護現場におけるロボット・ICTの活用促進	○
		(2)地域密着型サービスの充実	① 在宅生活を支える地域密着型サービスの充実	○
			② 高齢者の住宅設備改修の支援	△
			③ 養護老人ホームへの入所支援	○
	8	(1)効率的な介護保険サービス提供の推進【重点】	① 介護認定調査員支援システムの導入	○
			② 指定申請・指導監督に関する文書負担の軽減	○
			③ 介護現場におけるロボット・ICTの活用促進	○
		(2)適切な介護保険サービスの利用の促進	① 介護保険サービスの適正化事業の推進	◎
			② 介護保険事業者への指導・助言	○
			③ 認定調査員への支援	◎
(3)介護保険サービスの品質向上	④ 介護保険制度の周知	○		
	① 要介護度改善ケア奨励事業の実施	△		
	② 介護サービス相談員の派遣	△		
		③ 福祉サービス第三者評価の受審助成	○	
		④ 介護支援専門員への相談援助研修の実施	△	

2 基本目標・基本施策別 主な取組の進捗評価 集計結果

基本目標	基本施策	進捗評価の構成割合		
		◎	○	△
1	地域とつながり、いきいきと暮らしている	42.9%	42.9%	14.3%
	1 地域活躍と生きがい・健康づくりの推進	25.0%	50.0%	25.0%
	2 地域ネットワークの充実	66.7%	33.3%	0.0%
2	支援が必要になっても、支え合いにより住み慣れた地域で生活できている	36.8%	47.4%	15.8%
	3 日常生活支援の推進	25.0%	50.0%	25.0%
	4 認知症とともに生きるまちづくりの推進	40.0%	40.0%	20.0%
	5 在宅療養を支える医療・介護連携の推進	50.0%	50.0%	0.0%
	6 家族介護者の支援と高齢者の権利擁護	50.0%	50.0%	0.0%
	3 よりよい介護サービスを安心して利用し続けることができる	17.6%	58.8%	23.5%
7	住まいの選択肢の充実とサービス基盤・人的基盤の整備	16.7%	66.7%	16.7%
	8 介護保険サービスの効率的な提供と品質向上	18.2%	54.5%	27.3%
	合計	32.0%	50.0%	18.0%

<凡例>

- ◎: 計画以上に進んでいる(目標値に対して110%以上の実績値)
- : おおむね計画どおり進んでいる(目標値に対して90%以上110%未満の実績値)
- △: 計画どおり進んでいない(目標値の90%未満の実績値)

### 3 主な取組の進捗評価結果(詳細)

基本目標 1	地域とつながり、いきいきと暮らしている
基本施策 1	地域活躍と生きがい・健康づくりの推進

#### 取組の柱(1) 地域活動への参加促進と生きがいづくり

計画書p.50

主な取組①		老人クラブ活動の支援		
評価	指標	新規老人クラブ数		進捗評価
		目標値	実績値	
	2021年度	2クラブ	0クラブ	△
	2022年度	2クラブ	0クラブ	△
	2023年度	2クラブ		
2022年度の具体的な取組・成果		<p>・老人クラブの新規設立についての問合せは複数ありましたが、実際の立ち上げには至りませんでした。</p> <p>・既存の老人クラブについては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響から活動に支障をきたしていましたが、感染者数減少に伴い、活動を再開するクラブが多く見られました。</p>		
課題および今後の方向性		<p>・新設の問合せについては、引き続き丁寧な支援を行っていきと共に、既存の老人クラブについても、活動を継続できるよう支援していきます。</p>		

主な取組②		高齢者のスポーツ活動の普及		
評価	指標	高齢者のスポーツ大会等開催回数		進捗評価
		目標値	実績値	
	2021年度	3回	3回	○
	2022年度	3回	3回	○
	2023年度	3回		
2022年度の具体的な取組・成果		<p>・市主催の以下のゲートボール大会を開催しました。</p> <p>①ゲートボール大会（参加者：131名）</p> <p>②女子ゲートボール大会（参加者：83名）</p> <p>③シルバー親善ゲートボール大会（参加者：57名）</p>		
課題および今後の方向性		<p>・関連団体と安全な大会運営方法について協議し、大会を開催します。</p>		

#### 取組の柱(2) 介護予防・健康づくりのための通いの場の充実【重点】

計画書p.50

主な取組①		介護予防と健康づくりの一体的な推進		
評価	指標	フレイルチェック会参加人数(累計)		進捗評価
		目標値	実績値	
	2021年度	279人	265人	○
	2022年度	379人	414人	○
	2023年度	479人		
2022年度の具体的な取組・成果		<p>・フレイルチェック会を、町田市全体の高齢者を対象に5回、地域別に6回の計11回実施し、合計149人が参加しました。</p> <p>・フレイルチェック会参加者に対するアンケートのうち、「講座で学んだ内容を日常生活の中に取り入れてみたいですか」について、97.9%の方が「取り入れたい」または「少し取り入れたい」と回答しました。</p> <p>・新型コロナウイルスの感染症による影響で参加者が少なくなると見込んでいましたが、想定より多くの参加がありました。</p>		
課題および今後の方向性		<p>・引き続き「フレイルチェック会」を開催するとともに、より多くの方がフレイル予防に取り組めるように、普及啓発にも力を入れます。</p>		

主な取組② 地域介護予防自主グループの支援				
評価	指標	地域介護予防自主グループ数(累計)		進捗評価
		目標値	実績値	
	2021年度	322団体	338団体	○
	2022年度	326団体	363団体	◎
	2023年度	330団体		
2022年度の具体的な取組・成果		<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者支援センターにおいて、地域介護予防教室終了後10団体、短期介護予防教室終了後1団体の自主グループが立ち上がりました。</li> <li>・上記の新規立ち上げグループに加え、既に地域で活動している自主グループ14団体が介護予防に協力いただけるグループとして高齢者支援センターと関わりを持つことができたため、計25団体の増加となりました。</li> </ul>		
課題および今後の方向性		<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も引き続き、オンラインツールの活用を促進するなど、新型コロナウイルス感染拡大の影響で滞っていた自主グループの立ち上げや活動継続を支援していきます。</li> </ul>		

主な取組③ 「町田を元気にするトレーニング」(通称「町トレ」)自主グループの支援				
評価	指標	「町トレ」自主グループ数(累計)		進捗評価
		目標値	実績値	
	2021年度	176団体	173団体	○
	2022年度	188団体	193団体	○
	2023年度	200団体		
2022年度の具体的な取組・成果		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染防止対策として、自粛期間中でもできる運動メニューや町トレの紹介と併せて、通いの場における感染防止のポイントの周知を継続して行ったことなどにより、20グループが新たに立ち上がりました。</li> <li>・既存グループに対して、町トレ効果測定の実施など、活動継続の支援を行いました。</li> </ul>		
課題および今後の方向性		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症による活動への影響はありますが、引き続き、感染対策を行いながら、新規町トレグループの立ち上げ支援及び継続支援を行っていきます。</li> </ul>		

### 取組の柱(3) 高齢者の就労機会の確保と地域活躍の推進

計画書p.51

主な取組① 町田市シルバー人材センターによる就労機会提供の支援				
評価	指標	町田市シルバー人材センター新規入会者数		進捗評価
		目標値	実績値	
	2021年度	350人	333人	○
	2022年度	350人	387人	◎
	2023年度	350人		
2022年度の具体的な取組・成果		<ul style="list-style-type: none"> <li>・シルバー人材センターが行う業務説明会の会場確保を支援しました。</li> <li>・シルバー人材センターの広報活動として、町内会・自治会にパンフレットの掲示を依頼しました。</li> <li>・市庁舎イベントスタジオ及びみんなの広場にて、シルバー展を開催し、広く市民に対し活動を周知しました。</li> </ul>		
課題および今後の方向性		<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、シルバー人材センターが行う高齢者の就業機会の提供や、会員増加の取組への支援を行います。</li> <li>・シルバー人材センターが自主財源を中心とした組織運営ができるように、支援を行います。</li> </ul>		

主な取組②		介護予防サポーターの養成		
評価	指標	介護予防サポーター養成講座の修了者数(累計)		進捗評価
		目標値	実績値	
	2021年度	1,117人	1,097人	○
	2022年度	1,177人	1,152人	○
	2023年度	1,237人		
2022年度の具体的な取組・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防サポーター養成講座を4回開催しました。55名が修了し、累計登録者は1,152名になりました。</li> <li>・活動中のサポーターに対しては、介護予防活動をテーマとしたステップアップ講座をオンラインにより開催しました。</li> </ul>			
課題および今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、新規の介護予防サポーターの養成に取り組めます。</li> <li>・介護予防サポーターの地域での役割を考えるきっかけづくりや住民主体の活動の活性化を促すことを目的に、ステップアップ講座を開催します。</li> </ul>			
主な取組③		いきいきポイント制度の普及		
評価	指標	①いきいきポイント制度登録者数 ②いきいきポイント制度活動場所数		進捗評価
		目標値	実績値	
	2021年度	①2,350人 ②250か所	①2,131人 ②244か所	○
	2022年度	①2,450人 ②255か所	①2,119人 ②241か所	△
	2023年度	①2,550人 ②260か所		
2022年度の具体的な取組・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規登録研修会を年間で15回実施し、新たに126名が登録しました。また、2施設の新規施設登録がありました。一方、登録取消者が138人、取消活動場所が5か所あり、新規の登録数を上回ったことで、登録者数・活動場所数ともに2021年度から減少しました。</li> <li>・スキルアップを目的とした登録者向けの研修会を1回実施しました。</li> </ul>			
課題および今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登録者数・活動場所数減少の背景として、新型コロナウイルス感染症の影響でボランティア受入施設が減少し、ボランティアとして活躍できる場が限られていることや、自粛により活動への意欲が減退していることなどが考えられます。</li> <li>・各施設(団体)の感染状況に応じた活動を注視しながら、制度の周知に努めていきます。</li> </ul>			

基本目標 1	地域とつながり、いきいきと暮らしている
基本施策 2	地域ネットワークの充実

### 取組の柱(1) 高齢者支援センターのネットワーク機能の強化【重点】

計画書p.55

主な取組①		高齢者支援センターと関係機関との連携強化	
評価	目指す方向性	高齢者分野だけでは解決が難しい課題についての解決を支援する	
		目標値	実績値
	2021年度	-	-
	2022年度	-	-
	2023年度	-	-
2022年度の具体的な取組・成果		<ul style="list-style-type: none"> <li>・いわゆる「8050問題」といった高齢者分野だけでは解決が難しい課題に対応するため、高齢者支援センターが、障がい者支援センターや保健所を交えて、各機関での対応状況や課題についての共有や意見交換を行いました。</li> <li>・庁内の福祉・保健医療関係部署の職員が参加した検討会を開催し、複雑化・複合化した相談の受付体制や、各相談支援機関の連携の在り方及び支援を必要とする潜在的な相談者を把握する体制づくりに向けた検討を行いました。</li> <li>・課題解決の支援に向けて、関係機関が協力して対応する取組を実施したため、進捗評価を「○」としました。</li> </ul>	
課題および今後の方向性		<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、地域ケア会議等で多分野の関係機関が参加しての意見交換等を行うなど、高齢者支援センターと関係機関との連携強化に取り組みます。</li> <li>・庁内関係部署及び地域の相談支援機関で、包括的な相談支援体制の具体的な運用ルールの検討を行います。</li> </ul>	

主な取組②		地域ケア会議による課題解決機能の強化	
評価	指標	地域ケア推進会議の参加者アンケートで「地域課題の解決に向けて効果的な話し合いができた」と回答した方の割合	
		目標値	実績値
	2021年度	75%	89%
	2022年度	80%	92%
	2023年度	85%	
2022年度の具体的な取組・成果		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア会議運営ガイドラインに沿って地域ケア会議を開催し、地域の課題抽出・検討を行いました。</li> <li>・在宅医療・介護連携に関する地域ケア会議について、医療と介護の連携支援センターが会議内容を共有・確認するなど、会議の開催支援を行ったこと等により、2021年度より実績値が向上しました。</li> </ul>	
課題および今後の方向性		<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、高齢者の個別の課題や地域に共通した課題の解決に有効なものとなるよう、地域ケア会議の運営に取り組みます。</li> <li>・在宅医療・介護連携に関する地域ケア会議については、「医療と介護の連携支援センター」が会議内容を共有・確認するなどの開催支援を継続することで、会議の有効性を高めます。</li> </ul>	

### 取組の柱(2) 地域ネットワークづくりの強化

計画書p.56

主な取組①		高齢者見守り支援ネットワークの普及	
評価	指標	①見守り普及啓発講座・交流会の参加者数(累計) ②見守り協力事業者の数	
		目標値	実績値
	2021年度	①3,100人 ②602事業者	①3717人 ②634事業者
	2022年度	①3,600人 ②604事業者	①4742人 ②642事業者
	2023年度	①4,100人 ②606事業者	
2022年度の具体的な取組・成果		<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民に見守りの普及啓発を図るため、高齢者見守り普及啓発講座を46回実施しました。(ミニ講座28回・レギュラー講座18回)</li> <li>・市内の事業者へのアプローチに加え、市のホームページを見た事業者から申請していただいたことなどから、8事業者が新たに見守り協力事業者に加わりました。</li> </ul>	
課題および今後の方向性		<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、地域で活動する様々な団体や個人、事業者に対して普及啓発を行い、地域での見守りの目を広げていきます。</li> </ul>	

主な取組②		あんしんキーホルダーの普及		進捗 評価
評価	指標	あんしんキーホルダーの新規登録件数		
		目標値	実績値	
	2021年度	1,300件	1,563件	◎
	2022年度	1,300件	1,868件	◎
	2023年度	1,300件		
2022年度の具体的な取組・成果		<p>・自治会・町内会への働きかけや見守り普及啓発講座の開催時に周知を行ったことに加え、市内の商店や集会所等であんしんキーホルダーの登録会を行いました。また、4月より介護保険被保険者証の送付時に、あんしんキーホルダーに関するチラシを同封することで、更なる周知を行いました。</p> <p>その結果、1,868件の登録があり、総登録者数は21,268件となりました。</p>		
課題および今後の方向性		<p>・引き続き、普及啓発を行い、登録者数の拡大を図ります。</p>		

### 取組の柱(3) 緊急時等の地域連携機能の強化

計画書p.57

主な取組①		介護保険事業所等との緊急時の連携強化		進捗 評価
評価	目指す方向性	緊急時に備えた市内介護保険事業所間の連携体制の構築を推進する		
		目標値	実績値	
	2021年度	-	-	○
	2022年度	-	-	○
	2023年度	-	-	
2022年度の具体的な取組・成果		<p>・市では、大規模な災害発生時に、被災状況や事業継続についての情報を市と市内の介護保険事業所等と共有する仕組みを構築しています。2023年度は、2月に情報伝達訓練を実施し、対象施設の約6割である364事業所が参加しました。</p> <p>・災害時の情報共有の実効性を高めるため、「町田市介護保険事業所等災害時情報伝達マニュアル」の改定を行いました。</p> <p>・これらの取組みにより介護保険事業所等との緊急時の連携体制の構築を推進できたことから進捗評価を「○」としました。</p>		
課題および今後の方向性		<p>・引き続き情報伝達の仕組みを事業所に周知していくとともに、災害時にスムーズに対応できるよう、改正を行ったマニュアルについて、事業所からの意見を反映して見直しを行います。</p> <p>・大規模災害等に備え、市内介護保険事業所間の連携体制の構築を目指します。</p>		

主な取組②		高齢者の迅速かつ円滑な避難の確保と避難生活支援		進捗 評価
評価	目指す方向性	地域の要配慮者、避難行動要支援者への支援体制の構築を推進する		
		目標値	実績値	
	2021年度	-	-	◎
	2022年度	-	-	◎
	2023年度	-	-	
2022年度の具体的な取組・成果		<p>・市では災害発生時に、小学校等の一時避難所での生活が難しい要配慮者の避難先として、市内介護事業所等と二次避難施設設置運営に関する協定を締結しています。2022年度は、既存の二次避難施設31施設中、30施設を市の福祉避難所に指定できたことから、進捗評価を「◎」としています。</p>		
課題および今後の方向性		<p>・引き続き、二次避難施設協定締結施設との連携を推進していきます。</p>		

基本目標 2	支援が必要になっても、支え合いにより住み慣れた地域で生活できている
基本施策 3	日常生活支援の推進

取組の柱(1) 自立支援・重度化防止に向けた取組の推進【重点】 計画書p.60

主な取組①		地域ケア個別会議を活用した効果的な介護予防ケアマネジメントの実施		
評価	指標	地域ケア個別会議事例提出者の満足度		進捗評価
		目標値	実績値	
	2021年度	90%	100%	◎
	2022年度	90%	100%	◎
	2023年度	90%		
2022年度の具体的な取組・成果		「いいことふくらむ地域ケア個別会議(いいケア)」を12回を実施し、計24事例の検討を行いました。 事例提出者から取ったフィードバックシートでは、全ての事例提出者が「検討内容が本人に提案できそうな内容だったか」について、「とてもそう思う」または「まあそう思う」と回答しています。		
課題および今後の方向性		<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、要支援者等が、自分らしく、いきいきと生活を送るため、「いいことふくらむ地域ケア個別会議(いいケア)」を開催し、利用者の生活の質の向上につなげます。</li> <li>高齢者支援センターの支援が必要な事例について適切なタイミングで付議できるよう、「いいケア」の実施方法を見直します。</li> </ul>		

主な取組②		短期集中型サービスの実施		
評価	指標	短期集中型サービス目標達成率		進捗評価
		目標値	実績値	
	2021年度	75%	88%	◎
	2022年度	75%	69%	○
	2023年度	75%		
2022年度の具体的な取組・成果		<ul style="list-style-type: none"> <li>IADL向上教室は47名終了、町DAPは13名が終了しました。</li> <li>終了後の評価表が提出されている54名のうち37名が「片道15分程度、徒歩で自信を持って歩くことができる」などの目標を達成しましたが、目標達成率は68.51%にとどまりました。</li> <li>新規要支援認定者向けの郵送物に短期集中型サービス(サービスC)のチラシを同封した結果、参加者の約1/3の方がチラシを見て参加され、認知度を高めることができました。</li> </ul>		
課題および今後の方向性		<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の目標達成率向上のため、リハビリテーション専門職や高齢者支援センターと連携して進めていきます。</li> <li>引き続き高齢者支援センターと連携し、短期集中型サービス(サービスC)の利用拡大のために周知に努めます。</li> </ul>		

取組の柱(2) 地域の支え合いの推進 計画書p.61

主な取組①		生活支援団体ネットワークの支援		
評価	指標	生活支援団体ネットワーク登録団体数		進捗評価
		目標値	実績値	
	2021年度	17団体	20団体	◎
	2022年度	18団体	17団体	○
	2023年度	19団体		
2022年度の具体的な取組・成果		<ul style="list-style-type: none"> <li>生活支援団体の活動の充実を図るため、生活支援団体ネットワーク連絡会を2回、研修会を1回実施し、団体間の情報共有や情報交換を行いました。登録団体は17団体にとどまりました。</li> <li>社会福祉協議会が作成の生活支援団体ネットワークかわら版に登録団体の活動紹介記事を掲載し、広く周知しました。</li> </ul>		
課題および今後の方向性		<ul style="list-style-type: none"> <li>活動の縮小や担い手の高齢化などの理由で、活動を終了する団体が増えてきています。</li> <li>引き続き、社会福祉協議会や高齢者支援センターと連携しながら、既存の団体への相談や助言、連絡会の開催、活動団体のPR等を行うと共に、新規団体の立ち上げ支援を行うことで、地域の支えあい活動を推進していきます。</li> </ul>		



主な取組②		移動支援の推進		
評価	指標	移動支援ボランティア実施か所数		進捗評価
		目標値	実績値	
	2021年度	5か所	6か所	◎
	2022年度	6か所	8か所	◎
	2023年度	6か所		
2022年度の具体的な取組・成果		<p>・新たに忠生地区で老人クラブや地域住民が福祉事業所の協力のもと、移動支援を開始し、また相原地区でも地区社会福祉協議会のメンバーによる移動支援の取組が始まりました。それにより、市内の移動支援ボランティア実施箇所は、8か所となりました。</p> <p>・外出に困っている地域や送迎が必要な団体でドライバーとして活躍できる方を養成するため、地域支え合い型ドライバー養成研修を1回開催し、計11名が修了しました。研修修了者のうち、2022年度末時点で計4名が事業所や住民団体のボランティアドライバー等の活動につながりました。</p>		
課題および今後の方向性		<p>・引き続き、地域支え合い活動としての移動支援を推進するため、高齢者支援センターや関係団体と連携してボランティア団体の立ち上げ及び活動を支援していきます。</p>		

主な取組③		まちだ互近助クラブの支援		
評価	指標	まちだ互近助クラブ登録団体数		進捗評価
		目標値	実績値	
	2021年度	81団体	74団体	○
	2022年度	85団体	76団体	△
	2023年度	89団体		
2022年度の具体的な取組・成果		<p>・まちだ互近助クラブに登録する団体が新規で11団体増えましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、活動をやめる団体もあり、登録団体数は76団体にとどまりました。</p> <p>・クラブの活動継続支援の一つとして、クラブの参加者同士が、互いに見守り支え合えるよう、見守りや認知症について学ぶ講座を30団体に対して実施しました。</p>		
課題および今後の方向性		<p>・引き続き、高齢者支援センターと連携して団体の立ち上げ及び活動継続を支援していきます。</p>		

### 取組の柱(3) 生活支援サービスの提供

計画書p.63

主な取組①		自立支援・配食ネットワークの実施		
評価	指標	自立支援・配食ネットワークの実施利用者数		進捗評価
		目標値	実績値	
	2021年度	650人	629人	○
	2022年度	660人	607人	○
	2023年度	670人		
2022年度の具体的な取組・成果		<p>・利用者の健康状態をより詳細に把握し、栄養改善の維持が図れるよう様式の変更を行いました。</p> <p>・施設入所や入院等により、利用を終了する方が増加したため、利用者数は減少しました。</p>		
課題および今後の方向性		<p>・引き続き、配食サービスを通じて、在宅高齢者の安否確認を行います。</p> <p>・制度の周知に努め、必要な方への利用を呼びかけていきます。</p>		

主な取組②		高齢者在宅訪問理美容券の交付		
評価	指標	高齢者在宅訪問理美容券利用者数		進捗評価
		目標値	実績値	
	2021年度	3,000人	3,149人	○
	2022年度	3,000人	3,284人	○
	2023年度	3,000人		
2022年度の具体的な取組・成果		<p>・在宅高齢者の経済的負担軽減のため、理容店または美容店が出張により調髪を行う際に利用できる調髪利用券を、65歳以上で、要介護4または5の方に対し交付しました。</p> <p>・在宅で暮らされる要介護4または5の方が増加した結果、調髪利用券の利用者数が増加しました。</p>		
課題および今後の方向性		<p>・引き続き、調髪利用券を交付し、在宅での高齢者の経済的負担を軽減します。</p>		

主な取組③		寝具乾燥消毒事業の実施		
評価	指標	寝具乾燥消毒事業の実施利用者数		進捗評価
		目標値	実績値	
	2021年度	45人	42人	○
	2022年度	45人	36人	△
	2023年度	45人		
2022年度の具体的な取組・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅での衛生面の保持のため、利用希望者に対し寝具の乾燥消毒(年6回)及び丸洗い(年1回)を行いました。</li> <li>・施設入所や入院等により、利用を終了した利用者16人に対し、新規の利用が10人であったため、実施利用者数は減少しました。</li> </ul>			
課題および今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制度の周知に努め、必要な方への利用を呼びかけていきます。</li> </ul>			

基本目標 2	支援が必要になっても、支え合いにより住み慣れた地域で生活できている
基本施策 4	認知症とともに生きるまちづくりの推進

取組の柱(1) 認知症の人やその家族の視点を重視した地域づくりの推進【重点】

計画書p.65

主な取組①		認知症の人やその家族の居場所づくり		
評価	目指す方向性	各種普及啓発の取組や、認知症の人やその家族、市民、地域の関係者とのさまざまな取組を通し認知症とともに生きることのできるまちづくりを進める		進捗評価
		目標値	実績値	
	2021年度	-	-	○
	2022年度	-	-	○
	2023年度	-	-	
2022年度の具体的な取組・成果		<p>・認知症の人が作った竹灯籠を活用したワークショップを地域住民向けに1回開催しました。また、16のまちだアイ・ステートメントを活用して地域のつながりや居場所づくりについて検討するワークショップを学生向けに2回、地域住民向けに1回開催しました。4回のワークショップで、計128名の参加がありました。</p> <p>・認知症カフェを毎月1回オンラインで開催し、226名の参加がありました。</p> <p>・多くの市民や福祉専門職に参加いただいたため、進捗評価を「○」としました。</p>		
課題および今後の方向性		<p>・新型コロナウイルス感染症流行前は地域が主催する認知症カフェが市内に36箇所ありましたが、現在は22箇所に減少しています。認知症の人やその家族の居場所の再開や新しい形での立ち上げを支援していきます。</p> <p>・引き続き16のまちだアイ・ステートメントの普及・活用促進に取り組み、認知症の人やその家族の視点を重視した認知症とともに生きることが出来る地域づくりを推進します。</p>		

主な取組②		認知症サポーターの養成		
評価	指標	認知症サポーター養成講座の受講者数(累計)		進捗評価
		目標値	実績値	
	2021年度	33,100人	33,954人	○
	2022年度	34,200人	36,457人	○
	2023年度	35,300人		
2022年度の具体的な取組・成果		<p>・認知症サポーター養成講座を106回開催し、計2,503人が受講しました。感染症対策を行いながら講座の再開を進めたことで想定の約2倍の回数を実施することができ、受講者数の実績が目標数を上回りました。</p> <p>・認知症サポーター養成講座の受講者が、認知症についての理解をさらに深めるための認知症サポーターステップアップ講座を3回実施し、58人が受講しました。</p>		
課題および今後の方向性		<p>・引き続き認知症サポーター養成講座を実施し、認知症の正しい知識と理解を広く周知します。</p>		

主な取組③		行方不明高齢者の捜索支援		
評価	指標	行方不明高齢者探索サービス利用者数		進捗評価
		目標値	実績値	
	2021年度	128人	106人	△
	2022年度	149人	108人	△
	2023年度	170人		
2022年度の具体的な取組・成果		<p>・認知症の高齢者が行方不明になった場合に、GPSを活用して捜索をする本事業について、利用者数(GPS機器貸与者数)の増加に取り組みました。ホームページ等で周知を行うとともに、行方不明となったことがある高齢者の家族に対して案内を行いました。施設入所等により不要となった方もいるため、利用者数は108人とどまりました。</p>		
課題および今後の方向性		<p>・引き続き、行方不明者高齢者家族支援サービス事業の周知を行い、利用促進を図っていきます。</p>		

主な取組①		認知症相談支援		進捗 評価
評価	指標	認知症電話相談件数		
		目標値	実績値	
	2021年度	200件	254件	◎
	2022年度	200件	317件	◎
	2023年度	200件		
2022年度の具体的な取組・成果		・認知症電話相談に関するチラシの作成や、広報まちだへの掲載など、事業の更なる周知を行いました。その結果、認知症の専門相談窓口における電話相談は317件となり、目標値を117件上回りました。なお、高齢者支援センターで実施する医師による相談は166件、臨床心理士による相談は157件でした。		
課題および今後の方向性		・引き続き、認知症の方やその介護者に対する相談対応を行います。		
主な取組②		認知症の早期受診支援(認知症初期集中支援チーム事業)		進捗 評価
評価	指標	認知症の診断につながった対象者の割合		
		目標値	実績値	
	2021年度	65.0%	63.6	○
	2022年度	65.0%	77.4	◎
	2023年度	65.0%		
2022年度の具体的な取組・成果		・認知症が疑われる31名を支援チームで支援し、そのうち24名が受診に繋がりました。2021年度から継続して支援を行っていた対象者が受診につながるケースが複数あったため、2022年度の実績値は77.4%と目標値を上回りました。 ・初期集中支援事業を行うにあたってチーム員のスキルアップを目指し、チーム員である医療機関で会議を実施しました。		
課題および今後の方向性		・引き続き、かかりつけ医や地域の医療機関と連携を図るとともに、訪問継続中の方を受診に繋げる支援を行います。		

基本目標 2	支援が必要になっても、支え合いにより住み慣れた地域で生活できている
基本施策 5	在宅療養を支える医療・介護連携の推進

取組の柱(1) 多職種による在宅医療・介護連携の推進【重点】

計画書p.69

主な取組① 「町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト」の推進				
評価	指標	多職種連携研修会開催回数		進捗評価
		目標値	実績値	
	2021年度	2回	2回	○
	2022年度	2回	2回	○
	2023年度	2回		
2022年度の具体的な取組・成果	<p>・「町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト推進協議会」を3回開催し、医療・介護連携について協議を行いました。</p> <p>・「医療・介護現場のカスタマーハラスメント対策」をテーマに専門職向けの多職種連携研修会を開催しました。また、「町田市のフレイル予防について」をテーマに、市民向けに参加型の研修会を開催しました。</p>			
課題および今後の方向性	<p>・引き続き、「町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト」における各取組を通して、医療・介護連携を推進するとともに、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活していくための啓発活動を行っていきます。</p>			

主な取組② 「医療と介護の連携支援センター」による医療・介護連携の推進				
評価	指標	「医療と介護の連携支援センター」相談件数		進捗評価
		目標値	実績値	
	2021年度	1,500件	1,659件	◎
	2022年度	1,500件	1,980件	◎
	2023年度	1,500件		
2022年度の具体的な取組・成果	<p>・医療機関や介護事業所への周知を継続して実施した結果、2022年度の相談対応件数は1,980件となり、2021年度の1,659件から比べて約320件増加しました。</p> <p>・コロナにより在宅生活の継続が困難となった要介護高齢者に対し訪問介護等のサービスの導入を支援する「在宅要介護者受入支援事業」では、医療と介護の連携支援センターが受入調整を行い、3件の利用実績がありました。</p> <p>・「高齢者の目の見えにくさ」をテーマに、高齢者支援センター、居宅介護支援事業所向けの勉強会を3回開催しました。</p>			
課題および今後の方向性	<p>・引き続き、医療と介護の連携協働を促進するとともに、相談対応の中から連携協働を促進するうえでの課題抽出を行っていきます。</p>			

基本目標 2	支援が必要になっても、支え合いにより住み慣れた地域で生活できている
基本施策 6	家族介護者の支援と高齢者の権利擁護

### 取組の柱(1) 家族介護者への支援の充実

計画書p.72

主な取組① 家族介護者教室・家族介護者交流会の開催				
評価	指標	家族介護者教室・交流会の開催数		進捗評価
		目標値	実績値	
	2021年度	24回	63回	◎
	2022年度	24回	94回	◎
	2023年度	24回		
2022年度の具体的な取組・成果		・オンライン開催等、新型コロナウイルス感染症対策を講じたことなどにより、目標値を上回る94回(家族介護者教室24回、家族介護者交流会70回)実施することができました。		
課題および今後の方向性		・引き続き感染対策を講じたうえ、各高齢者支援センターで家族介護者教室、家族介護者交流会を開催します。		

主な取組② 市民向け基礎介護技術講習会の開催				
評価	指標	市民向け基礎介護技術講習会参加者数		進捗評価
		目標値	実績値	
	2021年度	40人	46人	◎
	2022年度	40人	62人	◎
	2023年度	40人		
2022年度の具体的な取組・成果		・家族介護者や介護に興味のある方を対象とした市民向けの「介護講習会」を3回実施し、計62人の参加がありました。		
課題および今後の方向性		・車いすの移乗や歩行の介助など、実務を交えて行うため、感染症対策を徹底した上で講習会を実施していきます。		

### 取組の柱(2) 高齢者の権利擁護

計画書p.73

主な取組① 成年後見制度の利用支援				
評価	目指す方向性	認知症などにより判断能力が低下した高齢者に対し、成年後見制度(市長申立て等)の活用に向けた支援をする		進捗評価
		目標値	実績値	
	2021年度	-	-	○
	2022年度	-	-	○
	2023年度	-	-	
2022年度の具体的な取組・成果		・市及び関係機関における、高齢者を対象とした成年後見制度に関する相談を483件受付ました。 ・外部の専門職も参加する権利擁護支援検討委員会を定期的に開催し、個別の事例について、成年後見制度の利用も含めた支援方針を検討しました。 ・高齢者を対象とした市長申立件数は、17件でした。 ・これらの取組み通じて、支援を必要としている高齢者を成年後見制度の利用に繋げることができたため、進捗評価を「○」としました。		
課題および今後の方向性		・今後、認知症高齢者の増加に伴い、成年後見制度利用者数も増加することが見込まれるため、後見人等の担い手育成に取り組む必要があります。 ・成年後見制度を必要としている方が制度を利用できるよう、2021年度に立ち上げた成年後見制度利用促進協議会を活用し、効果的な制度の周知方法の検討や、関係機関と連携した適切な利用支援を行う必要があります。		

主な取組②		高齢者虐待の防止		進捗 評価
評 価	目指す方向性	高齢者虐待に関するネットワークの構築や虐待防止の啓発を行う。虐待の防止・早期発見・対応を行う。		
		目標値	実績値	
	2021年度	-	-	○
	2022年度	-	-	○
	2023年度	-	-	
2022年度の具体的な取組・成果		<p>・高齢者・障がい者虐待防止連絡協議会において、外部講師による「虐待防止における多職種の連携」をテーマとした研修会を開催しました。</p> <p>・この研修会を通じて、虐待防止にかかる理解を深め、関係機関が連携して虐待防止に取り組むことができたため、進捗評価を「○」としました。</p>		
課題および今後の方向性		<p>・養介護施設従事者等による虐待が毎年発生しているため、施設管理者および施設職員に対する高齢者虐待防止法や高齢者虐待の類型等の周知啓発に努めます。</p>		

基本目標 3	よりよい介護サービスを安心して利用し続けることができる
基本施策 7	住まいの選択肢の充実とサービス基盤・人的基盤の整備

### 取組の柱(1) 介護人材の確保・育成・定着【重点】

計画書p.76

主な取組①		介護人材バンク機能強化による多様な担い手の確保	
評価	指標	介護人材バンクによる就労人数	
		目標値	実績値
	2021年度	40人	74人
	2022年度	40人	49人
	2023年度	40人	
進捗評価			◎
2022年度の具体的な取組・成果	<p>・求人・求職アプリ「まちけあジョブ」での情報提供や、LINE、Zoom等を活用した就労相談等を実施しました。また、感染症対策を徹底し、集合型の就労面接会、相談会を計28回開催しました。その他、市民向けに実施した介護の研修会場においても、就労相談を行いました。2021年度に見られた他業種からの人材流入は鈍化しましたが、新たに49人が市内の介護事業所等への就労につながりました。</p>		
課題および今後の方向性	<p>・高齢者人口の増加に伴い、介護サービスの需要の増加が見込まれます。 ・介護サービスを継続するために、引き続き、就労相談会、面接会等を実施し、介護人材の確保を進めていきます。</p>		

主な取組②		中核となる専門人材の育成・定着	
評価	指標	介護人材の育成・定着に関する研修参加人数	
		目標値	実績値
	2021年度	1,150人	1,106人
	2022年度	1,200人	1,196人
	2023年度	1,250人	
進捗評価			○
2022年度の具体的な取組・成果	<p>・オンライン会議システムを活用した研修及び感染症対策を徹底した集合型研修を計70回実施し、1,196人の参加がありました。また、参加者の自由なタイミングで視聴可能な研究発表動画の配信を行い、1,756回の視聴がありました。</p>		
課題および今後の方向性	<p>・専門人材の育成・定着の支援には、集合型研修が望ましいケースもあるため、状況を見極め、集合型研修の実施を検討していきます。</p>		

### 取組の柱(2) 地域密着型サービスの充実

計画書p.79

主な取組①		在宅生活を支える地域密着型サービスの充実	
評価	目指す方向性	地域密着型サービスの新規整備に向けた柔軟な対応	
		目標値	実績値
	2021年度	-	-
	2022年度	-	-
	2023年度	-	-
進捗評価			◎
2022年度の具体的な取組・成果	<p>・(看護)小規模多機能型居宅介護及び定期巡回・随時対応型訪問介護看護の整備運営事業者の募集を行いました。 ・(看護)小規模多機能型居宅介護については、1施設から応募があり、2022年9月に選定しました。しかし、2023年3月に事業者から事業実施取下げ書の提出があり、本計画は白紙となりました。一方で他の事業者とは、2023年度に応募に向けた調整を進めることができました。 ・定期巡回・随時対応型訪問介護看護については、応募はありませんでしたが、2021年度に選定しました2施設が2022年4月、7月に開設しました。 ・(看護)小規模多機能型居宅介護については、事業者と2023年度に応募に向けた調整が進められたこと、定期巡回・随時対応型訪問介護看護については2施設が開設したことから、進捗評価を「○」としました。</p>		
課題および今後の方向性	<p>・地域密着型サービスの整備において、定期巡回・随時対応型訪問介護看護の整備を進めることができましたが、(看護)小規模多機能型居宅介護の整備を進めることができませんでした。引き続き、公募中の施設については、新規整備に向けて柔軟に対応していく必要があります。</p>		



取組の柱(3) 多様な住まいや施設の確保

<b>主な取組① 高齢者の住宅設備改修の支援</b>				
評価	指標	住宅設備改修利用件数		進捗評価
		目標値	実績値	
	2021年度	80件	53件	△
	2022年度	80件	42件	△
	2023年度	80件		
2022年度の具体的な取組・成果		・高齢者が安心して在宅生活を継続できるよう、改修費用の一部を42名に対して給付しました。		
課題および今後の方向性		・今後も高齢者の在宅生活の継続のため、住宅改修研修会等を通じて、ケアマネジャー・高齢者支援センター、施工業者に事業の周知を行い、適切な制度利用を推進します。		

<b>主な取組② 養護老人ホームへの入所支援</b>				
評価	目指す方向性	適切な措置入所の実施		進捗評価
		目標値	実績値	
	2021年度	-	-	○
	2022年度	-	-	○
	2023年度	-	-	
2022年度の具体的な取組・成果		・養護老人ホームへの入所の要否について、医師や施設長等で構成する入所判定委員会を開催し、決定しました。 ・入所判定委員会を通して、環境上・経済上の理由により居宅での生活が困難な高齢者11人に対し、措置による施設入所を行い支援しました。 ・在宅で生活上の課題を抱えている高齢者に対して、入所支援の必要性を判断のうえ適切に対応したため、進捗評価を「○」としました。		
課題および今後の方向性		・在宅で生活上の課題を抱えている高齢者の入所相談について、それぞれの人に合った施設の情報提供・入所支援をしていきます。		

<b>主な取組③ 高齢者への居住支援の推進</b>				
評価	指標	借上げ型シルバーピア入居戸数		進捗評価
		目標値	実績値	
	2021年度	34戸	34戸	○
	2022年度	34戸	33戸	○
	2023年度	34戸		
2022年度の具体的な取組・成果		・借上げ型シルバーピアにおいて、住宅の確保が困難な高齢者の居住の安定を図るため、高齢者に配慮された構造と設備を備えている住宅を提供しました。 ・2023年1月に退去が発生したため、空き住戸が1戸ありますが、2022年度中にリフォームし入居できる状況を整えました。		
課題および今後の方向性		・入居者の高齢化に伴い、施設入所等による退去者数が増加することが見込まれます。 ・退去発生から次の入居までの期間短縮を図るとともに、入居者へのサービスの質の向上を図ることで高齢者への居住支援を推進します。		

基本目標 3	よりよい介護サービスを安心して利用し続けることができる
基本施策 8	介護保険サービスの効率的な提供と品質向上

取組の柱(1) 効率的な介護保険サービス提供の推進【重点】

計画書p.85

主な取組①		介護認定調査員支援システムの導入	
評価	指標	認定調査員(介護保険認定調査支援システム利用者)1人当り1日の調査件数	
		目標値	実績値
	2021年度	2.70件	-
	2022年度	2.85件	2.74件
	2023年度	3.00件	
2022年度の具体的な取組・成果	<p>・2022年4月から訪問調査モバイルシステムの先行運用を開始し、同年9月から市職調査員全員が訪問調査モバイルシステムの利用を開始しました。 【システム利用者1人当たり1日の調査件数状況】 2021年4月～2022年3月(未実施期間) 2.48件/日/人 2022年4月～8月(先行運用) 2.60件/日/人 2022年9月以降(本格運用) 2.74件/日/人</p>		
課題および今後の方向性	<p>・システム利用の習熟度向上と運用ノウハウの蓄積を継続的に行い、最終目標の1人1日あたりの調査件数3件を目指します。</p>		

主な取組②		指定申請・指導監査に関する文書負担の軽減	
評価	目指す方向性	確認文書等のさらなる削減や様式の標準化、ICT等の活用の検討	
		目標値	実績値
	2021年度	-	-
	2022年度	-	-
	2023年度	-	-
2022年度の具体的な取組・成果	<p>【指定申請について】 ・2021年度に引き続き、文書負担の軽減を図るために国が示す「介護サービス事業所の指定申請等に関する電子申請・届出システムの導入」について、検討しました。本システムの導入は、規制改革実施計画で2025年度までに全ての自治体での利用開始が求められており、導入開始時期として第一期(2022年度下半期)から第五期(2024年度下半期)までの期間が示されています。町田市は第二期(2023年度上半期)のシステム導入で回答し、システムの導入手続きを行いました。また、電子申請に対応するために町田市介護サービス事業者の指定等に関する規則を改正しました。 ・介護サービス事業所の指定申請等に関する電子申請・届出システムについて、2023年度上半期の導入に向けて手続きを進めたため、進捗評価を「○」としました。</p> <p>【指導監査について】 ・前年度の取り組み内容について見直しを行い、実地指導の事前提出書類の記入項目を整理、削減しました。継続して事業の見直しを行い、確認文書のさらなる削減に取り組んだため、進捗評価を「○」としました。</p>		
課題および今後の方向性	<p>【指定申請について】 ・今後は対象となる事業所に電子申請・届出システムの導入を周知します。周知にあたり、各事業所に電子申請・届出システムを使用するためのID取得を促し、2023年10月の運用開始に向けて、準備を進めます。</p> <p>【指導監査について】 ・実地指導が適切かつ効率的に事業者の負担が少なく実施できるように、確認文書の範囲を定期的に見直します。</p>		

主な取組③ 介護現場におけるロボット・ICTの活用促進				
評価	目指す方向性	介護現場におけるロボット・ICT活用の事例研究や展示等による活用の促進		進捗評価
		目標値	実績値	
	2021年度	-	-	△
	2022年度	-	-	○
	2023年度	-	-	
2022年度の具体的な取組・成果	<p>・「介護現場におけるICT・介護ロボットの活用促進」をテーマとした研修を行いました。ICT導入にあたる課題やICTを活用した成功事例、効果の紹介、補助金制度の活用についての案内を行いました。</p> <p>・研修を実施し、参加事業所からの評価が好評であったため、進捗評価を「○」としました。</p>			
課題および今後の方向性	<p>・介護サービス事業者を対象に、東京都の補助制度等について、引き続き周知を行ってまいります。</p>			

## 取組の柱(2) 適切な介護保険サービスの利用の促進

計画書p.86

主な取組① 介護保険サービスの適正化事業の推進				
評価	指標	ケアマネジメント勉強会実施事業所数		進捗評価
		目標値	実績値	
	2021年度	60件	65件	○
	2022年度	60件	66件	◎
	2023年度	60件		
2022年度の具体的な取組・成果	<p>・町田市で10事業所、高齢者支援センターで56事業所に対して、ケアマネジメント勉強会を実施いたしました。</p> <p>・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対面とオンラインでの開催を使い分けて、勉強会を実施しました。</p>			
課題および今後の方向性	<p>・適正な介護サービスを提供するケアプラン作成の支援のために、今後も勉強会を継続します。</p> <p>・国保連合会から提供される介護給付適正化関連システムや、給付実績を基にした情報等を活用し、ケアプラン点検対象事業所の選定を行います。</p> <p>・勉強会にアドバイザーとして参加している主任ケアマネジャーの集まる場で、より良いケアマネジメント勉強会のあり方を検討していきます。</p>			

主な取組② 介護保険事業者への指導・助言				
評価	目指す方向性	介護保険サービスの質の向上及び介護保険制度の適正な運営を確保する		進捗評価
		目標値	実績値	
	2021年度	-	-	○
	2022年度	-	-	○
	2023年度	-	-	
2022年度の具体的な取組・成果	<p>・介護保険サービス事業者が法令の基準等を遵守し適正な運営を行っているか確認するため、居宅介護支援事業所及び地域密着型サービス事業所を中心に64件の実地指導等を行いました。また、実地指導後も必要に応じて個別の指導を継続して行い、介護保険制度の適正な運営について理解が得られるよう努めました。これらの取り組みを継続して実施できたため進捗評価を「○」としました。</p>			
課題および今後の方向性	<p>・介護保険サービス事業者の適正な事業運営が確保されるように、実地指導及び集団指導等を通して法令、基準等の周知を行います。</p>			

主な取組③		認定調査員への支援		
評価	指標	認定調査員への研修回数		進捗評価
		目標値	実績値	
	2021年度	11回	11回	○
	2022年度	11回	12回	◎
	2023年度	11回		
2022年度の具体的な取組・成果		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規研修(本年3回開催)では、認定調査項目についての定義を解説しました。また、新型コロナウイルス感染症対策として、eラーニングシステムを用いた非参集方式も実施しました。</li> <li>・現任研修(本年2回開催)では、「情報収集力を高めよう～ポイントは5W1H～認定審査会に伝わりやすい特記事項の記入方法～」というテーマで、東京都介護支援専門員研修協議会から講師を招聘し、市内調査員に向けた研修を行いました。</li> <li>・フォローアップ研修(本年6回開催)では、市内調査員を対象に、調査方法や関連知識のフォローアップを行いました。</li> <li>・内部研修(本年1回開催)では、訪問調査モバイルシステム利用者を対象に、基本的事項と活用ノウハウの共有化を行いました。</li> </ul>		
課題および今後の方向性		<ul style="list-style-type: none"> <li>・増加する認定申請に対応するため、新規調査員の確保を図るとともに、認定調査の適正化を推進するため、継続的な研修の実施・強化を目指します。</li> </ul>		

主な取組④		介護保険制度の周知		
評価	指標	介護保険制度の周知に関する取組件数		進捗評価
		目標値	実績値	
	2021年度	3件	3件	○
	2022年度	2件	2件	○
	2023年度	2件		
2022年度の具体的な取組・成果		<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険制度について、被保険者だけでなく、より多くの市民にご理解いただけるよう、ホームページの見直しを適宜行い、制度の理解促進を図りました。</li> <li>・介護保険サービス事業者に対して、介護事業連絡会で説明を行うと共に、ホームページの見直しを適宜行い、制度の理解促進を図りました。</li> <li>・介護保険総合案内、介護保険サービス事業者リストが掲載された介護情報誌「ハートページ」を発行し、介護保険課窓口や高齢者支援センター等で希望者へ配布しました。</li> </ul>		
課題および今後の方向性		<ul style="list-style-type: none"> <li>・適正な介護保険サービスの利用が受けられるよう市からの周知を行います。</li> <li>・介護保険サービス事業者と連携して継続的に制度周知に努めていく必要があります。</li> <li>・引き続き、被保険者やそのご家族、事業者等に対し、ホームページやハートページ等を通じて、介護保険制度の周知に努めます。</li> </ul>		

### 取組の柱(3) 介護保険サービスの品質向上

計画書p.87

主な取組①		要介護度改善ケア奨励事業の実施		
評価	指標	要介護度の改善者数		進捗評価
		目標値	実績値	
	2021年度	150人	34人	△
	2022年度	150人	109人	△
	2023年度	150人		
2021年度の具体的な取組・成果		<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため同じ介護度を1年間延長する取扱いによらず、通常の更新申請をする方が増えました。これにより、取組の効果が表れ、2021年度と比較して改善者数が増加しました。</li> <li>・事業所連絡会等で、取組状況のアンケートの結果や過去3年度分の取組成果等を示し、更なる事業活用の促進を図りました。</li> </ul>		
課題および今後の方向性		<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も良質な施設介護サービスの提供が進むように本事業の制度活用を促進する必要があります。</li> <li>・本事業の効果検証のため、対象施設に対し2022年度の取組状況等に関するアンケートを実施し、課題を整理の上、適宜改善を施し取り組みます。</li> <li>・2023年度から、東京都でも要介護度の維持・改善に資する取組を行った事業者に対して報奨金を支給する事業が開始されたため、情報収集をするとともに、市の事業のあり方について検討する必要があります。</li> </ul>		

主な取組②		介護サービス相談員の派遣		
評価	指標	介護サービス相談員の派遣事業所数		進捗評価
		目標値	実績値	
	2021年度	36事業所	4事業所	△
	2022年度	36事業所	7事業所	△
	2023年度	36事業所		
2022年度の具体的な取組・成果		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、介護サービス相談員の派遣先事業所が面会制限をしており、サービス相談員を派遣することが出来ませんでした。</li> <li>・2022年度は、感染予防対策を講じた上で3事業所への派遣を再開し、2021年度に派遣再開していた4事業所と合わせ、計7事業所に相談員を派遣することが出来ました。</li> </ul>		
課題および今後の方向性		<ul style="list-style-type: none"> <li>・2023年度は、4月から新たに1事業所、6月ごろから新たに15事業所の派遣が再開し、派遣施設は22施設になる予定です。</li> <li>・派遣先事業所との連携を密にとり、今後の事業運営再開手法等を検討していきます。</li> </ul>		
主な取組③		福祉サービス第三者評価の受審助成		
評価	指標	福祉サービス第三者評価受審助成事業所数		進捗評価
		目標値	実績値	
	2021年度	13事業所	16事業所	◎
	2022年度	13事業所	14事業所	○
	2023年度	13事業所		
2022年度の具体的な取組・成果		<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内介護保険サービス事業所(14事業所)に対し、「東京都福祉サービス評価推進機構認証評価機関」による第三者評価費用の受審費用を助成しました。</li> </ul>		
課題および今後の方向性		<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス提供事業者の質の向上に向けて、今後も助成を継続します。</li> </ul>		
主な取組④		介護支援専門員への相談援助研修の実施		
評価	指標	相談援助研修修了者数		進捗評価
		目標値	実績値	
	2021年度	100人	98人	○
	2022年度	100人	74人	△
	2023年度	100人		
2022年度の具体的な取組・成果		<ul style="list-style-type: none"> <li>・町田市介護人材開発センターと共催し、ケアマネジャー向けに相談援助研修として、初級編(全4日間)と上級編(全5日間)の研修を開催しました。</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2021年度に引き続きオンライン形式で開催いたしました。</li> </ul>		
課題および今後の方向性		<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会は、主任ケアマネジャーの推薦要件として町田市では定めており、引き続きケアマネジメントの質の向上を図るため、開催します。</li> <li>・研修後のアンケートの結果を踏まえ、初級編、上級編共に充実した研修内容を検討していきます。</li> </ul>		